
令和7年度 射水市観光振興計画推進会議 議事録

- 日時: 令和8年3月23日(月)13時30分～15時00分
- 場所: 新湊消防署3階
- 出席者: 別紙席次のとおり

1. 議事の概要

事務局より令和7年度実施事業、令和8年度実施予定事業について説明があり、それに基づき委員間での質疑応答および意見交換が行われた。

2. 主な質疑・意見交換

① 内川エリアの活性化(朝市の開催)

- 委員質問: 朝市の試験開催について、ターゲットや出店者の実態はどうか。
- 事務局回答: 現在は地元住民が中心。目的は単なる賑わい創出だけでなく、出店者や来場者の中から「次の内川のプレイヤー(担い手)」を見出し、サポートしていく土壌作りにある。

② インバウンド対応と海外プロモーション

- 委員意見: 台湾プロモーションの反応はどうか。
- 事務局回答: 台湾ではカニやユネスコ無形文化遺産(曳山祭)への反応が極めて高く、宿泊予約に直結する動きもある。課題として、キャッシュレス決済の普及や通訳体制の拡充が急務。

③ スポーツツーリズムの推進(オリバースポーツフィールド)

- 委員意見: 施設(AIカメラ等)は全国屈指だが、バックアップ体制が脆弱。宿泊価格の不均衡や、数千食規模の弁当発注が市内で完結せず、市外に経済効果が流出している。
- 事務局回答: 課題は認識済み。地域経済への波及を目指し、総合的に調整を担う「スポーツコミッション」の設立を検討している。

④ 観光拠点施設(道の駅・博物館)のあり方

- 委員意見: 新湊博物館が道の駅の動線を分断している。大規模改修を機に、より多面的な利用や観光拠点としての機能を再考すべき。
- 事務局回答: 建物が比較的新しく移転は困難だが、近隣施設(天然温泉海王等)と連携した協議会を月1ペースで開催し、エリア全体の盛り上げを模索している。

⑤ 街並み保存と「(仮称)情景条例」

- 委員意見：地震後の解体等で内川の街並みが急速に失われている。一過性のイベントよりも、日々の生活経済の維持と、ハード面(景観保全)への踏み込んだ対策が必要。
- 事務局回答：観光資源としての価値を損なわないよう、令和8年度にかけて「情景条例」を策定予定。規制か誘導かを含め、暮らしと観光が両立する持続可能な街づくりを検討する。

⑥ イベント戦略の転換

- 事務局説明：「越中大門凧まつり」などの一部イベントについて、地域経済への波及効果や観光事業としての継続性を鑑み、令和7年度をもって終了・見直しを行う苦渋の決断をした。

3. 総括(座長まとめ)

観光は地域の総合力が試されるものであり、単体では資源にならないものでも、掛け合わせることで魅力が増幅する。特に内川エリアは今後10年が正念場であり、街づくりと一体となった観光振興を「情景」というキーワードで推進していく。

